



2016~17 年度国際ロータリーテーマ
「人類に奉仕するロータリー」 ROTARY SERVING HUMANITY
RI 会長 ジョンF. ジャーム
2016~17 年度 関ロータリークラブテーマ
「おもいやり」 第51 代会長 今峰徹

第 2435 号 平成 28 年 10 月 18 日 (火)

前例会の記録・第 2434 回 10 月 11 日(火)12:30

「当地区の景気動向について」

関信用金庫 理事 塚原健司様

◆開会点鐘

◆「我らの生業」斉唱

◆会長挨拶



皆様こんにちは。本日は、関信用金庫理事の塚原健司様に当地区の景気動向についてという演題で話していただきます。

当地区の景気はいいのか悪いのかははっきりわかりませんが、大垣共立に関信用金庫が来ている、即ち仲が良いということは関市にとって良いことと思います。

◆委員会報告

◎出席委員会 委員長 西本理美

会員 47 名中 出席 33 名 出席率 73.34%

◎ニコボックス委員会 委員長 林昇

会長・副会長・幹事の皆さん…関信用金庫 理事 塚原健司様、ようこそ関ロータリークラブへ。本日は、「当地区の景気動向について」という題目で卓話をお願いしております。景気動向は我々にとって、とても気になるところでありますので、よろしく願い申し上げます。

山村、長尾、後藤、林(昇)、岩倉、土屋、加藤(照)の皆さん…関信用金庫 理事 塚原健司様、ようこそ関ロータリークラブへ。お忙しい中、卓話をお引き受けいただきありがとうございます。テーマの景気動向については、クラブ会員にとっては大きく関わる事と思いますのでお話、楽しみにしています。

◆「当地区の景気動向について」

関信用金庫 理事 塚原健司様



取引先中小企業の景気動向調査を実施し、取りまとめましたのでご報告いたします。調査は、平成28年7~9月期の景気実態と、平成28年10~12月期の景気予測などについて当金庫取引事業先の製造業・卸売業・小売業・サービス業・建設業・不動産業の6業種から抽出した223社を対象にアンケート調査し、207社からご回答をいただきました。(回答率92.82%)

今回の調査においては、業況判断※DI の水準は、3業種が悪化と業種によってばらつきがありました。全体の

業況判断DI▲11.5は前回調査時(▲11.0)から0.5ポイントのマイナスとほぼ横ばいとなりました。業種別では、小売業は16.1ポイントのプラス、建設業は8.0ポイントのプラス、サービス業は5.2ポイントのプラスとなりました。一方、卸売業は21.1ポイントのマイナス、不動産業は11.1ポイントのマイナス、製造業は8.8ポイントのマイナスとなりました。来期の業況予測判断DIについては、多くの業種で回復すると予想されており、今回実績と比べ9.1ポイントプラスの▲2.4と上昇しました。業種別では、製造業は20.9ポイントとのプラス、卸売業は8.7ポイントのプラス、サービス業は5.7ポイントのプラス、小売業は5.6ポイントのプラス、建設業は5.1ポイントのプラスとなりました。一方、不動産業は5.5ポイントのマイナスと予想されています。

前回調査時において、多くの業種において業況は後退しているものの、今後は若干ではあるが回復していくとの予想でしたが、今回の調査において、業種によるばらつきはあるものの、総合業種判断DIはほぼ横ばいとなり、本格的な回復には今しばらく時間がかかりそうです。かねてからの懸念材料であった原材料費の高騰については、おさまりつつあるものの、同業者間の競争の激化、人件費の高騰による利幅の縮小が業況回復の足枷となっていることが伺えます。

内閣府発表の平成28年4~6月期の国内総生産(GDP)改定値は前期比+0.2%、年率換算で+0.7%と2四半期連続でプラス成長となったものの、個人消費は依然として弱さが見られ、円高の影響もあり企業の設備投資、特に製造業は精彩を欠き、景気の足踏み状態がうかがえます。海外経済の停滞、円高による輸出の不振といった中、プラス成長となったのは公共投資の増加、日銀によるマイナス金利により住宅市場の拡大があったためですが、今後もこの状態はしばらく続きそうで、政府が発表した28兆円の経済対策、特に10兆円超のインフラ整備が、国内総生産(GDP)を押し上げるものの、全体的には今後も低成長が続くものと思われる。

内閣府発表の8月の景気ウォッチャー調査では、街角景気は前月比0.5ポイント上昇し45.6となり、基調判断は「景気は持ち直しの動きが見られる」としました。しかしながら、指数は2カ月連続上昇となったものの、水準値の50.0を下回ったままの状態です。海外経済の行方、円高懸念は依然払拭されず、今後順調に回復に向かうかどうかは非常に不透明な状況といえます。

日銀はデフレ脱却を目指し、大胆な金融緩和を進め、マイナス金利政策、さらに9月の金融政策決定会合で長短金利誘導政策を導入しました。政府内からも歓迎の声が相次ぎ、政府・日銀一体で「アベノミクス」を推進する姿勢をアピールしています。

一方、米国ではFRB(米連邦準備制度理事会)は9月の利上げを見送りました。米国経済は7年を超える景気拡大が続いていますが、実質成長率は2%と低く、雇用はほぼ完全雇用状態にあるものの物価上昇率は高まっておらず、年内の利上げも懐疑的な憶測が出ています。今後日銀が長期金利を高め誘導すると、日米の金利差が縮小し円高ドル安が進み、1ドル95円前後になると懸念する声も上がっています。

いずれにしても「金融政策だけではバランスの取れた成長につながらない」(ECBドラギ総裁)とあるように、日米欧とも積極的に構造改革を推し進め経済成長率を高めていくことが期待されます。

安倍政権は「働き方改革」を経済政策の柱としていますが、積極的な構造改革、少子高齢化対策、さらに地方創生を通じ、そうした動きが地方の中小企業にまで浸透することが、中期的に景気回復につながっていくものと思われる。

※DIとは・・・diffusion index(ディフュージョン・インデックス)といい、景気や業況の動きを捉えるための指数。景気動向指数や業況判断指数など

$$DI = (\text{良い} + \text{やや良い}) - (\text{やや悪い} + \text{悪い})$$

◆幹事報告

◎近隣クラブの例会変更と休会通知

・可茂RC・各務原RC

◎当クラブの例会変更

12月17日(土)年末家族会 ⇒ 12月13日(火)

12月13日(火)年次総会 ⇒ 12月20日(火)

次例会のご案内 10月25日(火)12:30

「地区大会の報告」 担当:会長・幹事

例会:毎週火曜日12:30

例会場:岐阜県関市本町6-20大垣共立銀行関支店2F

事務局:岐阜県関市平和通7-10-25アメリカ2F